

# まこと

発行：ののうち誠後援会  
〒699-0108 松江市東出雲町出雲郷1670  
電話・FAX 0852-52-3117  
Eメール nonouchi@mable.ne.jp

ブログで日々の活動を紹介しています。フェイスブックもやっています。  
<http://www.mable.ne.jp/~nonouchi/>

後援会だより—October

発行日:2015年10月30日

ののうち  
まこと VOL 17

makoto 誠

## 松江市に生きる

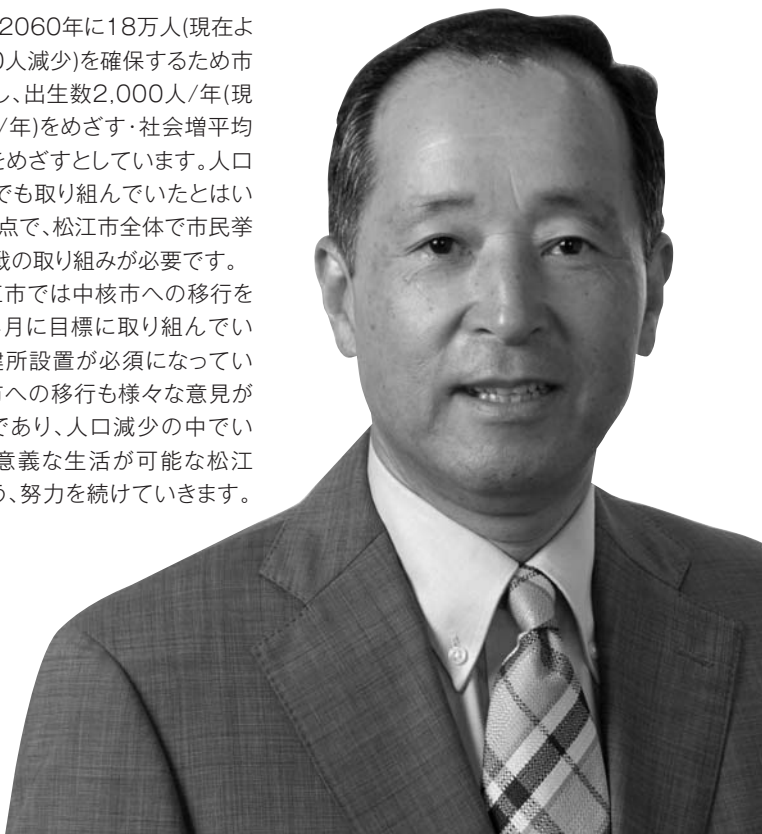
10月1日に議会全員協議会が開かれ、策定が進む「松江市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・第1次総合戦略(案)」が執行部から説明されました。

日本全体が直面する大都市圏への人口の偏りや人口の急減、少子高齢化といった課題に対し、国が主要な政策として立ち上げたのが「地方創生」であり、各地域がそれぞれの特徴をいかした自律的で持続的な社会を創生するため、第1次として5年間(平成27年度～平成31年度)の計画の策定が急がれています。

松江市における総合戦略の人口ビジョンは、人口減少問題をさまざまな努

力で克服し、2060年に18万人(現在より約25,000人減少)を確保するため市民運動を起し、出生数2,000人/年(現在1,800人/年)をめざす・社会増平均270人/年をめざすとしています。人口対策は今までも取り組んでいたとはいえ、新しい視点で、松江市全体で市民挙げての総力戦の取り組みが必要です。

また、松江市では中核市への移行を平成30年4月に目標に取り組んでいますが、保健所設置が必須になっています。中核市への移行も様々な意見があるところであり、人口減少の中でいつまでも有意義な生活が可能な松江市であるよう、努力を続けていきます。



10月3日の興雲閣改修記念式典において

平成26年度決算を承認、地方創生第1幕の補正予算も可決

## 9月松江市議会

10月6日、松江市議会9月定例会は28日間の会期を終えました。

9月市議会では、マイナンバー制度の個人カード関連や新総合体育館の

利用に関する条例改正のほか、補正予算では、一般会計6億9千万円余で地方創生の第1幕として5つのステップ関連予算が計上されました。また、一般会計1000億1989万円余などの平成26年度の決算17案件も審査し、提出された議案は全て可決・承認されました。

また、議員提出議案の、参議院選の

合区を見直し、各都道府県一人の代表者が国政参加できるようにとの「参議院選挙制度の見直しを求める意見書の提出について」などの4件は、全員賛成で可決され、国に対して意見書を送付することになりました。

(予算金額や提出議案の詳細は市ホームページや市報等をご覧ください)

## 最近の活動から

### 揖屋馬潟線建設促進会議が開かれました

10月7日、東出雲町商工会館で「揖屋馬潟線建設促進会議」の総会が開かれました。会議には松浦松江市長も出席し、8月4日に市長が県知事に都市計画道路揖屋馬潟線の未事業区間(延長:1200m)の事業化を要望したことから、今後は県において事業実施をしてもらうための取り組みを進めると述べました。一方、県からは、事業中の区間(660m)は取り組みの遅れから当初の平成29年度未完成が困難となったことを明らかにしました。会議では、全部が開通して初めて効果が出ることから、県事業として早急に整備を進めてもらうよう各種の働きかけをすることになりました。



市長も出席し、揖屋馬潟線建設促進会議総会

### 市議会で学校図書館活用教育の研修会を開きました

9月4日、「これからの学校教育と学校図書館」と題した研修会を、鎌田和宏帝京大学教授を講師に市役所で開催しました。



他の公務で来松 学校図書館活用教育研修会

された鎌田教授の協力を得て、松江市議会議員の皆さんに学校図書館活用教育の内容を知ってもらおうと野々内が主催し呼びかけ、議員9人と市教委職員など17名に参加していただきました。

東出雲町で展開していた図書館活用教育は、生きる力を育むもの。松江市の子ども達の未来のために、学校図書館活用教育が進むことを願っています。

### 東出雲まちづくり会議で地域課題の話し合い



東出雲まちづくり会議で活動報告

10月13日、「平成27年度東出雲まちづくり会議」が、東出雲町自治会連合会の主催で東出雲ふれあい会館で開催。今年度2回目となるこの会議では、地域や全町で抱える様々な課題を取り上げ、地区長の皆さんなどで組織する自治体連合会や市職員などがそれぞれの取り組みや、その対策などを話し合いました。

野々内も、合併から4年2カ月余り経過したことから、合併時に策定の「合併市町村基本計画」を点検し、都市計画道路揖屋馬潟線の未着手部分の課題、南廻山団地の市営住宅の未整備などの課題や、東出雲地域の課題解決に向けた一般質問などの取り組みを話しました。共に課題解決に努力していきます。

## 後援会のお知らせ

ののうち誠後援会にご加入いただき、一緒にまちづくりをしていきましょう。この度後援会だよりvol.17を発行いたしましたので、ご高覧いただけますようお願い申し上げます。

### ◆後援会事務局◆

〒699-0108 松江市東出雲町出雲郷1670  
TEL・FAX/0852-52-3117  
Eメール nonouchi@mable.ne.jp  
<http://www.mable.ne.jp/~nonouchi/>

### ののうち誠 プロフィール

昭和25年生まれ(現在64歳)出雲郷小学校→東出雲中学校→島根県立松江農林高校→東出雲町役場就職(平成23年3月に町参事を最後に退職)→平成23年8月松江市議会初当選、平成25年4月2期目当選



▶ ホームページ、  
ブログはこちらから

# 一般質問

野々内は、9月定例市議会でも連続16回目の一般質問を行ないました。



## Q 特定工場における緑地面積率等の緩和について

工場立地法には、特定工場と呼ぶ製造業等の敷地面積9千㎡以上または建築面積3千㎡以上の工場について、新增設を行う際の敷地面積に対する緑地面積の割合を定めています。

工場立地法の改正に伴い、平成24年4月1日から全ての市で条例を制定すれば、基準を緩和することが可能となりましたが、本市では条例を制定せず国準則のままです。

国準則では緑地面積の敷地面積に対する割合は20%以上ですが、本市と益田市を除く県下6市は5%以上が10%以上となっており、土地利用について大きな差があります。地方創生に通じる人口



土地活用に悩む市内の工場増設予定地

減少を食い止める雇用創出への取り組みを、本市は逃がしています。本市として、特定工場における緑地面積率等の緩和をする考えがないか伺います。

松浦市長 この緩和措置については、最近ものづくりアクションプランの見直し等で、いろいろな企業の方々にお話を聞きますと、見直しを望む声は大変強いものがあります。環境問題に対し地域の実情をよく考えながら対応していくことが求められると思っておりますが、いずれにしてもこの制度、条例制定につきましては前向きに

る学力」について、地方創生や共創のまちづくりの観点から市長はどう考えているのかお尋ねします。

この学校図書館活用教育の一方で、学校の図書費が大幅に減額されたと聞きました。素材となる本が少なくなれば効果は半減します。学校図書館の図書購入費の現状と市立図書館の図書購入費の現状をお聞きます。

岩田副教育長 図書購入費については、学校図書館は昨年度に比べ5割減の820万円、市立図書館は2割減の1,600万円です。市立図書館や他校と本の相互貸借ができる物流システムにより、松江市全体の既存図書の有効活用に使っています。

③1950年代に教育者だった東井義雄氏は、「村を育てる学力」を、村を見捨てず、愛し、育てる主体性をもった学力であると思っています。それと対極にあるのは、「村を捨てる学力」です。それは村に見切りをつけ、都会に出ることに希望を持って養われる学力であると思っています。学校図書館活用教育も「生きる力」を育てることを目標にしています。そこで、「村を捨て

## Q 学校図書館活用 教育の充実について

①全国学力テストの結果を受けて、島根県では読書推進を検証しているが、本市の考え方を問う。また、本市における学校図書館活用教育の現状を聞く。

8月に公表された全国学力・学習状況調査の島根県の悪い結果を受けて、県教育委員会は、問題を読み解く読解力の養成を課題に挙げるとともに、読書推進を検証するとしています。このことについての市の考えと、本市における学校図書館活用教育の現状を聞きます。

岩田副教育長 本市でも県と同様に、子供たちの読解力を高めていくことは課題として捉えており、図書館の活用は有効です。読解力や情報リテラシーは一朝一夕に身につくものではなく、長い目で育てていきたいと考えています。

本市の図書館活用教育では、学校

定する基本相談業務を市内17の事業所に委託し、専門的な指導や助言などの相談支援機能強化として市内7の事業所に委託して行っています。

今、障がいを抱えた子ども達は増加し今後様々な相談は増えることは確実です。本市として、次年度以降の障がい者相談支援事業と委託料をどう考えているか、伺います。

井田健康福祉部長 本市の障害手帳の所持者や障がい児向け福祉サービス利用者は増加傾向です。こうした中で、相談支援業務の重要性は増しており、市内17事業所に委託をし、身体、知的、精神の3障がいへの対応、また「まっえ障がいサポートス



学校図書館は図書を活用した授業の場でもあります(東出雲中学校図書室)

図書館支援センターの指導等で、11学級以下の学校にも司書教諭の発令、小中学校全校に学校司書を配置、本の相互貸借ができる物流システムの体制が整い、1人当たりの年間貸出冊数は、小学校で約70冊、中学校15冊、加えて、学校図書館を活用した授業は、ここ4年間で倍増し、1学級当たり小学校で年間約29回、中学校では年間約16回になっています。今後はさらに図書館活用教育が展開されるよう努めていきます。

②学校や市立図書館の図書購入費が減額されたと聞くが、現状はどうか。

「テーシヨんきずな」の運営など総合的な相談体制をとっています。一方で、機能強化の受託をしている事業所の一部では、事業所として抱える相談案件や業務量が増え、相談専門員に対する負担が増加しており、機能強化に係る事業実施に苦慮しているというご意見も伺っています。今後は、実態調査を行った上で事業所と十分に協議を重ね、次年度以降の委託について検証したいと考えています。

(一般質問とその回答の全文はホームページのブログで紹介しています)

## 12月議会予定

- 12月2日(水) 本会議(会期の決定、委員長報告・質疑・討論、採決、提案説明)
- 7日(月) 一般質問
- 8日(火) 一般質問
- 9日(水) 一般質問・議案質疑・委員会付託
- 10日(木) 総務委員会
- 11日(金) 教育民生委員会
- 14日(月) 経済委員会
- 15日(火) 建設環境委員会現地調査
- 18日(金) 本会議(委員長報告、質疑・討論・採決、閉会)

障がい者の皆さんへの相談支援事業は、本市においては法律に規

## Q 障がい者相談支援について

障がい者相談支援事業の、次年度以降の事業についての考え方を伺う。